

第1回 アクティブステージ研修

令和6年7月30日(火)

講演「保育の一場面から深める子ども理解」

講師 京都教育大学 准教授 佐川 早季子氏

1. 動画視聴(5歳児クラス 遊びの様子)・グループワーク①

◇行動や姿に着目

「子どもが楽しんでいること」「面白いと感じていること」動画の子どもの姿を見て感じたこと、気付いたことを話し合う



2. 佐川先生講演「保育の一場面から深める子ども理解」

◇子ども理解が保育の出発点

幼児期にふさわしい教育を行う際に必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることである。教師は幼児と生活を共にしながら、その幼児が今、何に興味をもっているのか、何を表現しようとしているのか、何を感しているのかなどを捉え続けていく必要がある。幼児が発達に必要な体験を得るための環境の構成や教師の関わり方も、幼児を理解することにより、適切なものとなる。

文部科学省(2019) 幼児理解に基づいた評価

◇子ども理解に向けての視点

(1)子どもを肯定的に見る

- ・子どものできないことを課題としてだけみるのではなく、やろうとしていること育とうとしている力を見つける→今育っている力をさらに伸ばし、次に繋げていける環境づくりや関わりをすることができる

(2)子どもの行為の意味を知る

- ・何気ない1つの場面の子どもたちの行動も、なぜ、そうした行動をとるのかをその子どもの側から探り、その場面における経験がその子にとってどのような「意味」を持っているのかを考える
- ・その時その子にとって必要な経験やそのために求められる援助のあり方は決して一様ではない「こうすべき」「これが正解」と決められるものでもない

(3)発達する姿を捉える

- ・一人一人の子どもの発達の道筋の中で、活動の意味を捉えることが大切
- ・認識の力の発達(考えて構成する力、模倣する力)、ことばの発達(説明する姿、教える力)、造形表現の発達(全体を見通して語る力)などの子どもの発達は、具体的な生活の中で興味や関心が、どのように広げられたり深められたりしているか、遊びの傾向はどうか、生活への取り組み方はなど、遊ぶ姿、生活する姿の変化を丁寧に見ていくことによって捉えることができる。

3. 動画視聴（1回目と同じ動画）・グループワーク②

◇内面（思い、興味関心）に着目

「何に楽しい、面白いと考えているのか」

「なぜ、楽しい・面白いと感じているのか」

◇発達を考える

- 子どもの姿
- 子どもの年齢的な発達と考えるもの
- その子らしさ、個人の発達段階と考えるもの

→子どもの「もっとやってみよう」という思い・興味・関心をもとに、その遊びが繰り返され、学びにつながる経験にするための援助や環境構成を話し合う



【Aグループ】

- はだしになって掘った穴に水を貯めている
- 水の感触・砂の感触・冷たさが心地良い
- 貯めた水の中に入りたい
→水が存分に使える水場がある
遊びの続きができる砂場で自分の思いを実現できる
- 水を運んだり流したりする用具、道具の種類が多くある
- 水を貯めよう・流そう 友達とすることが楽しい
- 使いたい道具を選ぶ 自然と役割を伝え合う
→近くで保育者が見守り、認め、自己肯定感を高める

【Bグループ】

- 大きな温泉を作って遊んでいる
- もっと水を入れてみよう、貯めてみよう
- 水をたくさん入れてみんなで一緒に入りたい
→道具を用意し自分たちで進められるように見守る
- 高低差を作り、水の流れを楽しんでいる
- 水をどンドン流したい
- 「ウォーターライダーみたい！」作ってみよう
→子どものつぶやきをのがさない・イメージを実現できるような違う場に設定する

【Cグループ】

- 大きく掘った穴にトイから水を流す
- 水の流れの動きや速さに楽しさを感じている
- 穴を深く掘ると水路の水の流れが速くなる
→砂場の横などにトイを並べて水の流れを試しながら、遊べる環境作り
- 水の動きや溜まっていく泥の様子が面白い
- 水に砂を混ぜてドロドロにしよう
- 砂の量を調整することで水が変化することが面白い
→子どもの言葉を聞いて大きさ重さの違う道具や用具を用意する

佐川先生の講評

子どもがやりたいこと、関わりたいこと、実現したいことは何なのかを考え、その子どもにとってその活動を展開する意味を理解していくことが子ども一人一人の発達する姿を捉えることになる。その視点は、援助や環境を再構成するなど、次の保育への手立てを考えていく上で欠くことができないものである。一人一人の子どもの興味や遊びの楽しさがどこにあるのかを一緒に遊ぶなかで見取り、保育者間で伝え合い共有することで、その後の環境構成につながっていく。また、保育者は言葉がけや援助をおこないながら、子どもの発達の道筋の中で、活動の意味を捉えることが大切である。

4. 参加者の声や気付き

- ・子どもの行為の意味を理解することで、援助が変わるということ。また、子どもの活動の意味を理解するためには一緒に遊びながら体で感じるということが分かった。
- ・子どもが見せる様々な姿を元に、どんなことを考えているのか、思っているのか、感じているのかを肯定的に受け止め理解していくことの必要性を学ぶことができた。
- ・段階を踏んで意見を出し合う形式だったことで、進めやすく話しやすい雰囲気だった。